

NEWS RELEASE

2023年8月25日

日本豆乳協会

SOY2306

日本豆乳協会

2023年4-6月期における豆乳類の生産量は、99,501 kℓ

～ 消費者の買い控えの影響を受け、豆乳類全体の生産量は、前年同期比93.1%に ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：山崎 孝一 キックコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2023年4-6月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は99,501 kℓ（93.1%）となりました。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、「豆乳（無調整）」の生産量は31,575 kℓ（95.8%）「調製豆乳」は、47,326 kℓ（92.6%）と減少傾向にあります。また、「果汁入り豆乳飲料」は、4,305 kℓ（98.1%）とほぼ前年並みでしたが、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、12,843 kℓ（86.1%）となり、前年同期を下回りました。出荷量においても生産量と同様の傾向を示しています。なお、主に業務用を用途とする「その他」の категорияにおいても、3,452 kℓ（97.0%）となりました。

社会情勢やエネルギー問題等の外部環境の影響で、あらゆる場面での値上げが相次いでおり、生活者が様々な食品・飲料の買い控えをしています。特に、4-6月期においては、他の食品・飲料市場と同様に生活者の消費マインドの低下、買い控え等の影響があったことから、豆乳類の生産量においても前年同期比を下回る結果となりました。

現状の豆乳市場は、外部環境の変化や価格改定の影響を受けた市場環境ですが、豆乳協会では、食における健康志向は依然として高く、豆乳に対する健康への期待値は大きいと考えています。今後の市場環境として、7月-9月期においては、メーカー各社の新作商品も市場に投入されることから、生産量の増加が期待されます。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を 4ℓに増加させ（2022 年 3.4ℓ / 総人口 12,500 万人）、年間総生産量を 50 万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和 54 年 9 月 1 日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年 10 月 12 日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル
田中/岩野

メール：vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017